



# Cisco Unified MeetingPlace Express VT のためのアドホック会議の設定

改訂：2006年10月18日、OL-12185-01-J

この章では、アドホックの音声会議、ビデオ会議、および Web 会議を設定する方法を説明します。アドホック会議を開始するには、Cisco Unified MeetingPlace Express 以外の製品のエンドユーザ インターフェイスを使用する必要があります。一方、スケジュールされた会議および予約不要の会議のセットアップとアクセスには、Cisco Unified MeetingPlace Express のエンドユーザ インターフェイス（電話または Web）を使用する必要があります。

この章の内容は、次の場合に適用されます。

- Cisco Unified MeetingPlace Express VT システムを所有している場合。
- Cisco Unified MeetingPlace Express システムを所有しているが、アドホックの音声会議、ビデオ会議、Web 会議の機能を試したい場合。ライセンスとポートの制限が適用されることに注意してください。



(注)

代わりに、スケジュールされた会議および予約不要の会議用にシステムをセットアップする場合は、[第 5 章「Cisco Unified MeetingPlace Express のためのスケジュールされた会議および予約不要の会議の設定」](#)を参照してください。

この項の内容は、次のとおりです。

- [アドホック会議の前提条件 \(P. 6-2\)](#)
- [アドホック会議に関する制限 \(P. 6-2\)](#)
- [アドホック会議についての情報 \(P. 6-3\)](#)
- [アドホック会議の設定方法 \(P. 6-7\)](#)

## アドホック会議の前提条件

- システムを主にアドホック会議に使用する場合は、Cisco Unified MeetingPlace Express VT 製品を購入し、次に示すライセンスをインストールしてください。
    - [adhocsystemsoftware](#)
    - [maxadhoc](#) (音声ポート用)
    - [webconf](#) (Web ポート用)
    - [stdvideoconf](#) (ビデオポート用)
- この条件を満たしていなければ、システムのアドホック音声ポート、ビデオポート、または Web ポートはデフォルトの 6 個だけとなります。また、[webconf](#) ライセンスをインストールしなければ、デフォルトの Web ポートは試用期間が終了すると使用できなくなることに注意してください。
- アドホック会議を利用できるのは、Cisco Unified CallManager に登録されているエンドポイントデバイスだけです。サポートされるエンドポイント デバイスについては、Cisco Unified CallManager の各リリースのドキュメンテーションを参照してください。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/tsd\\_products\\_support\\_series\\_home.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/tsd_products_support_series_home.html) にアクセスしてください。
  - Cisco Unified MeetingPlace Express サーバに対して、有効な DNS サーバが設定されており、クラスタ内のすべての Cisco Unified CallManager サーバのドメイン名解決が可能であることを確認してください。DNS 設定の修正方法は、『[Cisco Unified MeetingPlace Express インストールとアップグレードガイド](#)』を参照してください。

### 関連項目

- [ライセンスのインストールと管理の方法 \(P. 3-7\)](#)
- [Cisco Unified CallManager との統合について \(P. 7-2\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace Express VT のためのアドホック会議の設定 \(P. 6-1\)](#)

## アドホック会議に関する制限

アドホック会議には、次の制限が適用されます。

- Cisco Unified CallManager 4.1 以降のリリースだけがサポートされます。
- ビデオに関して、「[アドホック ビデオに関する制限 \(P. 6-5\)](#)」に記載されている制限があります。
- アドホック会議は、課金レポートに記録されません。
- アドホック会議は、エンドユーザ Web インターフェイスの [会議に参加] ページや [会議の検索] ページには表示されません。

### 関連項目

- [Cisco Unified MeetingPlace Express VT のためのアドホック会議の設定 \(P. 6-1\)](#)

## アドホック会議についての情報

アドホック会議は、Cisco Unified MeetingPlace Express 以外の製品のエンドユーザ インターフェイスを通して開始されます。たとえば、音声のみ、または音声とビデオのアドホック会議を開始するには、Cisco Unified CallManager に登録されている Cisco Unified IP Phone の「ミートミー」ボタンまたは「会議」ボタンを使用します。Cisco Unified Personal Communicator を通して音声会議、ビデオ会議、Web 会議を開始することもできます。

一方、スケジュールされた会議および予約不要の会議のセットアップとアクセスには、Cisco Unified MeetingPlace Express のエンドユーザ インターフェイス（電話または Web）を使用する必要があります。スケジュールされた会議および予約不要の会議については、次に示す項を参照してください。

- [スケジュールされた会議に関する情報 \(P. 5-3\)](#)
- [予約不要の会議についての情報 \(P. 5-7\)](#)

次に示すエンドポイントでアドホック会議を使用できるようにするには、Cisco Unified CallManager で、Cisco Unified MeetingPlace Express サーバを Cisco ビデオ会議ブリッジとして設定します。

- Cisco Unified Personal Communicator : 音声、ビデオ、Web  
Cisco Unified Personal Communicator の詳細については、<http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/index.html> にアクセスしてください。
- Cisco Unified CallManager の Meet-Me 会議とアドホック会議をサポートするすべての音声およびビデオエンドポイント : 音声とビデオのみ  
Meet-Me 会議とアドホック会議については、使用するリリースの『Cisco Unified CallManager System Guide』の「Conference Bridges」の章を参照してください。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html) にアクセスしてください。



(注)

アドホック会議の機能と利点については、次の URL にアクセスして、Cisco Unified MeetingPlace Express VT のデータ シートを参照してください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6533/products\\_data\\_sheets\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6533/products_data_sheets_list.html)

この項の内容は、次のとおりです。

- [アドホック会議用の Web ポートについて \(P. 6-3\)](#)
- [アドホック会議用の音声ポートについて \(P. 6-4\)](#)
- [アドホック会議用のビデオ ポートについて \(P. 6-4\)](#)
- [アドホック ビデオについて \(P. 6-5\)](#)

## アドホック会議用の Web ポートについて

システムで使用可能なアドホック Web ポートの数は、インストール済みの [webconf](#) ライセンスと [maxadhoc](#) ライセンスのポート数のいずれか小さい方です。

アドホック Web ポートが使用されるのは、次の条件がすべて満たされているときだけです。

- [adhocsoftware](#) ライセンスが Cisco Unified MeetingPlace Express システムにインストールされている。
- Cisco Unified MeetingPlace Express と Cisco Unified Personal Communicator とが統合されている。
- Cisco Unified Personal Communicator ユーザが会話に Web 会議を追加する。

**関連項目**

- [ライセンスについて \(P. 3-3\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace Express の Cisco Unified Personal Communicator との統合 \(P. A-1\)](#)
- [アドホック会議についての情報 \(P. 6-3\)](#)

**アドホック会議用の音声ポートについて**

システムで使用可能なアドホック音声ポートの数は、インストール済みの **maxadhoc** ライセンスのポート数によって決まります。

アドホック音声ポートが使用されるのは、次の状況です。

- 3 つ以上のエンドポイントが関与する音声コールで会議が開催されるときに、エンドポイントがそれぞれ 1 つのポートを使用します。2 つのエンドポイント間の直接かつ音声のみのコールでは、アドホック音声ポートは使用されません。
- Cisco Unified IP Phone によって Meet-Me 会議が作成されるときに、1 つのポートが使用されます。
- Meet-Me 会議に電話をかける追加のエンドポイントごとに、別のポートが使用されます。
- 使用されているビデオ ポートごとに 1 つの音声ポートが使用されます。

**関連項目**

- [ライセンスについて \(P. 3-3\)](#)
- [アドホック会議についての情報 \(P. 6-3\)](#)
- [概要：アドホック会議の設定 \(P. C-4\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace Express VT のためのアドホック会議の設定 \(P. 6-1\)](#)

**アドホック会議用のビデオ ポートについて**

システムで使用可能なアドホック ビデオ ポートの数は、**maxadhoc** ライセンスおよび **stdvideoconf** ライセンスのポート数によって決まります。1 つのコールで、ビデオ エンドポイントごとに 1 つのアドホック ビデオ ポートが使用されます。

システムで使用可能なアドホック ビデオ ポートの実際数は、最大ビデオ ビット レートの設定によって決まります。

- デフォルトのビット レート 320 kbps では、使用可能なアドホック ビデオ ポートの数はインストール済みの **stdvideoconf** ライセンスのポート数に等しくなります。
- 最大ビデオ ビット レートを下げた場合も、使用可能なアドホック ビデオ ポートの数は、インストール済みの **stdvideoconf** ライセンスのポート数のままです。
- 最大ビデオ ビット レートを 704 kbps に上げると、次の式に従ってシステムで使用可能なアドホック ビデオ ポートの数が減ります。

使用可能なアドホック ビデオ ポートの数 = **maxadhoc** ライセンスのポート数 / 3

たとえば、**maxadhoc** ライセンスのポート数が 60 の場合に、最大ビデオ ビット レートが 704 に上がると、使用可能ポート数は 20 になります。



(注) この変更が有効になるのは、[Ad Hoc Conferencing Configuration] ページで値が保存された後です。

- **stdvideoconf** ライセンスがインストールされていない場合は、デフォルトの 6 個のビデオ ポートに最大ビデオ ビット レートの変更の影響が及ぶことはありません。

現在システムで使用可能なアドホック ビデオ ポートの数は、[Ad Hoc Conferencing Configuration] ページの読み取り専用フィールド [Max streams supported at this bit rate] に表示されます。

#### 関連項目

- [ライセンスについて \(P. 3-3\)](#)
- [アドホック会議についての情報 \(P. 6-3\)](#)
- [概要：アドホック会議の設定 \(P. C-4\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace Express VT のためのアドホック会議の設定 \(P. 6-1\)](#)

## アドホック ビデオについて

Cisco Unified MeetingPlace Express には、ソフトウェア ベースのビデオ ミキサーが組み込まれており、同じサーバ上のソフトウェア ベースのオーディオ ミキサーによって決定された、現在アクティブな発言者に応じてビデオ ストリームが切り替えられます。この音声によってアクティブ化される表示には、Common Intermediate Format (CIF) デイメンションを使用して一度に 1 つのビデオ ストリームだけが表示されます (1x1 レイアウト)。

アクティブな発言者のビデオ ストリームは会議のすべてのエンドポイントに送信され、現在アクティブな発言者には、その前の発言者のビデオ ストリームが送信されます。会議のエンドポイントが 1 つだけの場合は、そのエンドポイントには自身のビデオ ストリームが表示されます。

#### 関連項目

- [アドホック ビデオに関する制限 \(P. 6-5\)](#)
- [アドホック ビデオに関する推奨事項 \(P. 6-6\)](#)
- [オーディオ ミキサーについての情報 \(P. 5-13\)](#)
- [アドホック会議についての情報 \(P. 6-3\)](#)
- [アドホック会議の設定方法 \(P. 6-7\)](#)

## アドホック ビデオに関する制限

- ビデオ会議では、参加しているすべてのエンドポイントが同じビデオ ビット レートを使用するように自動的に調整が行われます。会議の参加者が別のビデオ ビット レートを使用している場合は、最も低速のエンドポイントに合わせてビット レートを下げるようにエンドポイントに指示するフロー制御メッセージが Cisco Unified MeetingPlace Express から送信されます。
- 参加するビデオ エンドポイントはすべて、[Video codec] フィールドで設定されているコーデックを使用するように動的に調整されます。設定されているコーデックをサポートしないビデオ エンドポイントは、ビデオ会議に参加できません。

#### 関連項目

- [アドホック ビデオについて \(P. 6-5\)](#)
- [アドホック会議についての情報 \(P. 6-3\)](#)
- [アドホック会議の設定ページのフィールド \(P. C-4\)](#)

## アドホック ビデオに関する推奨事項

ビデオ ミキサーによって、現在アクティブな発言者にビデオ ストリームが切り替えられます。アクティブな発言者とは、オーディオ ミキサーによって決定された「最大音量」の発言者のことです。したがって、ビデオ コールに参加しているエンドポイントで大きなバックグラウンド ノイズが発生すると、切り替えが正しく行われなことがあることがあります。

ビデオ コールに参加するエンドユーザには、次の推奨事項を伝えてください。

- 聞いているだけで発言しない場合は、電話をミュートします。
- スピーカーフォンは、エコーや呼び出し音、ハウリングを発生させることがあるので、使用しないでください。
- ビデオ カメラ内蔵のマイクロフォンを使用する場合は、送風機や通気口などの、雑音を発するものにカメラを向けないようにしてください。
- ソフトフォン (Cisco Unified Personal Communicator と Cisco VT Camera の組み合わせまたは Cisco IP Communicator と Cisco Unified Video Advantage の組み合わせ) の場合
  - コンピュータ内蔵のマイクロフォンを使用しないでください。このようなマイクロフォンは、バックグラウンド ノイズを拾う傾向があります。
  - マイクロフォン付きヘッドセットの使用を強くお勧めします。
  - 使用可能なマイクロフォンが複数ある場合は、目的のマイクロフォンを使用するようにコンピュータおよびビデオ エンドポイントが設定されていることを確認してください。

たとえば、Cisco Unified Personal Communicator を Cisco VT Camera とともに Windows XP システム上で使用しており、マイクロフォン付きのヘッドセットもあるとします。このヘッドセットのマイクロフォン XML 設定ファイルを使用するようにシステムが設定されていることを確認するには、[スタート] > [コントロール パネル] > [サウンドとオーディオ デバイス] を選択します。[オーディオ] タブをクリックして、録音のデバイスとしてヘッドセットが選択されていることを確認してください。

使用するエンドポイント製品のドキュメンテーションに記載されている、最適なオーディオ設定とオーディオの問題解決の説明を参照してください。

### 関連項目

- [アドホック ビデオについて \(P. 6-5\)](#)
- [オーディオ ミキサーについての情報 \(P. 5-13\)](#)
- [アドホック会議についての情報 \(P. 6-3\)](#)
- [アドホック会議の設定ページのフィールド \(P. C-4\)](#)

## アドホック会議の設定方法

アドホック会議に関する設定を行うには、Cisco Unified CallManager と Cisco Unified MeetingPlace Express の両方を設定する必要があります。この両製品が設定されると、Cisco Unified MeetingPlace Express が Cisco Unified CallManager に登録され、サポート可能なビデオポート数、使用するビデオコーデック、および設定された最小 / 最大ビデオビットレートが報告されます。同様に、Cisco Unified CallManager から Cisco Unified MeetingPlace Express に XML 設定ファイルが送信されます。このファイルの内容は、Cisco Unified CallManager で設定されたパラメータです。

この項の内容は、次のとおりです。

- [アドホック会議に関する Cisco Unified MeetingPlace Express の設定 \(P. 6-7\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace Express を会議ブリッジとして使用するための Cisco Unified CallManager の設定 \(P. 6-8\)](#)

## アドホック会議に関する Cisco Unified MeetingPlace Express の設定

この項では、Cisco Unified MeetingPlace Express サーバ上でアドホック会議関連の設定を行う方法を説明します。

### 始める前に

次の項を参照してください。

- [アドホック会議の前提条件 \(P. 6-2\)](#)
- [アドホック会議に関する制限 \(P. 6-2\)](#)



### 注意

ここで説明する設定パラメータを変更すると、Cisco Unified MeetingPlace Express システムによってアクティブなコールおよび会議がすべて消去されます。Cisco Unified CallManager での現在の登録がキャンセルされ、新しい設定パラメータを使用して登録が行われます。

### 手順

- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Express にログインします。
- ステップ 2** ページの上部にある [管理] をクリックします。
- ステップ 3** ページの左側で次の操作を実行します。
  - [System Configuration] をクリックします。
  - [Call Configuration] をクリックします。
  - [Ad Hoc Conferencing Configuration] をクリックします。
- ステップ 4** 各フィールドの値を入力または変更します。これらのフィールドの説明は、「[アドホック会議の設定ページのフィールド](#)」(P. C-4) を参照してください。

少なくとも、次に示すフィールドを設定してください。

  - **SCCP enabled** : [Yes] を選択します。
  - **Primary TFTP server** : TFTP サービスを実行しているプライマリ Cisco Unified CallManager サーバの IP アドレスを入力します。

- [Backup TFTP server 1](#) : TFTP サービスを実行しているバックアップ Cisco Unified CallManager サーバの IP アドレスを入力します。

**ステップ 5** [\[MAC address\]](#) フィールドの値を書き留めるか、コピーします。この値は、Cisco Unified CallManager で Cisco Unified MeetingPlace Express サーバを会議ブリッジとして追加するときが必要です。

**ステップ 6** [\[Save\]](#) をクリックします。

**ステップ 7** 「[Cisco Unified MeetingPlace Express を会議ブリッジとして使用するための Cisco Unified CallManager の設定](#)」 (P. 6-8) に進みます。

#### 関連項目

- [アドホック会議についての情報](#) (P. 6-3)
- [Cisco Unified CallManager との統合について](#) (P. 7-2)
- [概要 : アドホック会議の設定](#) (P. C-4)

## Cisco Unified MeetingPlace Express を会議ブリッジとして使用するための Cisco Unified CallManager の設定

この項では、Cisco Unified MeetingPlace Express サーバを Cisco ビデオ会議ブリッジとして認識するように Cisco Unified CallManager サーバを設定する方法を説明します。

#### 始める前に

- 次の項を参照してください。
  - [アドホック会議の前提条件](#) (P. 6-2)
  - [アドホック会議に関する制限](#) (P. 6-2)
- 「[アドホック会議に関する Cisco Unified MeetingPlace Express の設定](#)」 (P. 6-7) で説明しているタスクをすべて実行します。
- このタスクは、Cisco Unified CallManager の管理ページで実行するタスクです。ページの内容とメニューは Cisco Unified CallManager のバージョンによって異なるため、実際の詳細な手順については、Cisco Unified CallManager の管理のオンライン ヘルプを参照してください。次の手順は、Cisco Unified CallManager リリース 4.1 のものです。

#### 手順

**ステップ 1** [http://ccm-server/ccmadmin](#) にアクセスします。*ccm-server* は、Cisco Unified CallManager サーバの完全修飾ドメイン名または IP アドレスです。

**ステップ 2** Cisco Unified CallManager の管理者ユーザ名とパスワードを使用してログインします。

**ステップ 3** [\[Cisco Unified CallManager Administration\]](#) ページの上部にあるメニューで、[\[Service\]](#) > [\[Media Resource\]](#) > [\[Conference Bridge\]](#) の順に選択します。

**ステップ 4** ページ右上の [\[Add a New Conference Bridge\]](#) をクリックします。

**ステップ 5** タイプとして [\[Cisco Video Conference Bridge \(IPVC-35xx\)\]](#) を選択します。

**ステップ 6** [\[Conference Bridge Configuration\]](#) ページで、[表 6-1](#) の説明に従ってフィールドを設定します。



表 6-1 Cisco Unified CallManager に新規会議ブリッジを追加するためのフィールド

Conference Bridge Configuration のフィールド	アクション
MAC Address	Cisco Unified MeetingPlace Express の MAC アドレスを入力します。これは、「アドホック会議に関する Cisco Unified MeetingPlace Express の設定」(P. 6-7) のステップ 5 で確認したものです。または、「システムの MAC アドレスの確認」(P. 3-7) を参照してください。 例：1231123245AB
Device Pool	デバイス プールが 1 つも定義されていない場合は、[Default] を選択します。  Cisco Unified CallManager でユーザ定義のデバイス プールが利用されている場合は、会議ブリッジと互換性のあるコーデックが指定されたリージョンに対応する、新しいデバイス プールを作成するか、既存のデバイス プールを選択してください。現時点で Cisco Unified MeetingPlace Express がサポートしているのは、G.711 オーディオ コーデックのみです。  デバイス プールのプロパティのうち、このデバイスに対して指定されるものには、Cisco Unified CallManager グループ、日付/時刻グループ、リージョンなどがあります。

**ステップ 7** (オプション) [Product Specific Configuration] 領域のフィールドを設定します。

プロダクト固有の設定項目のフィールド説明とヘルプを参照するには、Product Specific Configuration という見出しの右にある [i] という情報アイコンをクリックすると、ヘルプがポップアップダイアログボックスに表示されます。

Registration Info の各フィールドは、自動的にダウンロードされる XML 設定ファイルの作成時に使用されます。また、Cisco Unified CallManager への登録時に Cisco Unified MeetingPlace Express を設定するためにも使用されます。

**ステップ 8** [Insert] をクリックします。

設定プロセスのこの時点で、Cisco Unified MeetingPlace Express が Cisco Unified CallManager に登録されます。管理センターの [Ad Hoc Conferencing Configuration] ページの [Status] フィールドに「Registered」と表示されると、Cisco Unified MeetingPlace Express 会議ブリッジは Cisco Unified CallManager アドホック会議に使用できる状態になります。

Cisco Unified CallManager Meet-Me 会議も使用できるようにする場合は、次の手順に進みます。

**ステップ 9** (オプション) Cisco Unified MeetingPlace Express 会議ブリッジを Meet-Me 会議で使用できるようにするために、次に示す高レベルタスクを Cisco Unified CallManager で実行します。

- a. Meet-Me 番号パターンを追加または更新します。
- b. ステップ 6 で設定した MAC Address が含まれるように、Media Resource Group (MRG; メディアリソースグループ) を追加または更新します。
- c. ステップ 9b で設定した MRG が含まれるように、Media Resource Group List (MRGL; メディアリソースグループリスト) を追加または更新します。



**(注)** Cisco Unified CallManager は常に、MRGL 内で最初に見つかったリソースを使用します。音声のみの会議ブリッジが MRGL の先頭にある場合は、ビデオを必要とするコールのときも、Cisco Unified CallManager Express は常にこの会議リソースを最初に使用します。そのため、この MRG を MRGL の先頭(優先度が最も高くなる位置)に置いてください。

- d. **ステップ 9c** で設定した MRGL に含まれる電話機（音声またはビデオ エンドポイント）をそれぞれ設定します。

これらの高レベル タスクの実行方法の詳細は、使用するリリースの Cisco Unified CallManager のアドミニストレーション ガイドおよびシステム ガイドを参照してください。このドキュメンテーションは、[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html) にあります。

---

#### 関連項目

- [アドホック会議についての情報 \(P. 6-3\)](#)
- [Cisco Unified CallManager との統合について \(P. 7-2\)](#)
- [概要：アドホック会議の設定 \(P. C-4\)](#)

#### 次の操作

エンドユーザがビデオ コールを発信する可能性がある場合は、「[アドホック ビデオに関する推奨事項](#)」(P. 6-6) を参照してください。